

2023年度(2024年3月期)第3四半期決算説明会質疑応答(要旨)

日時：2024年2月6日(火) 16:00-17:00

【3Q業績について】

Q：会社計画に対してどうだったか

A：中国の事業環境が想定以上に悪化したことで、計画値を若干下回った。一方、為替レートは想定よりも円安になったことにより、為替影響込みでは計画値を上回る。

Q：計測セグメント/北米で医薬向けに増加している理由は

A：製薬専門の営業の強化や、競争力のある超臨界流体液体クロマトグラフなどが評価されているため。

【通期業績予想について】

Q：11月公表値から各セグメントの業績予想が変更されている理由は

(対11月公表値 計測 引下げ 医用 引下げ 産業 引上げ 航空 引上げ)

A：(計測) 中国の市況悪化を勘案

(医用) 日本の医療機関の設備投資が想定よりも減少

(産業) ターボ分子ポンプや工業炉が想定よりも上振れ

(航空) 民間航空の需要拡大

【計測機器事業/中国の事業環境・見通しについて】

Q：腐敗防止運動の影響は

A：医用事業は入札件数の減など影響を受けているが、計測への影響はほとんどない。

Q：今期の中国の売上高の見通しは

A：第4四半期は減収になると見込んでいる。一方、通期は前年度のロックダウンの反動や為替の追い風もあり、前年比プラスを見込んでいる。

Q：来年度の見通しは

A：医薬・CRO分野はしばらく厳しい事業環境が継続すると見込む。、そのため、医薬では漢方薬や2025年に改訂される薬典改定への取り組みや、需要が拡大している臨床、グリーン関連、アカデミア分野へ注力する。

【計測機器事業/北米戦略について】

Q：研究開発拠点拡大の進捗は

A：進捗は予定通りに進んでいる。現地の顧客ニーズに対応したアプリケーション開発に加え、ハードウェアの開発も行う。そのための、専門人材の採用も進めていく。

【来年度の見通しについて】

Q：来年度の見通しを教えてください

A：（計測）ヘルスケア・グリーン領域でトータルソリューションを提供し、業績の拡大を図る。中国の回復には、時間を要する見込みだが、中国以外の地域の需要は堅調と想定している。

（医用）2023年度はインフレにより日米で病院の設備投資意欲が減少したが、2024年度は回復すると見込んでいる。

（産業）半導体製造装置向けターボ分子ポンプの需要が回復すると見込んでいる。また、グリーン向けのターボ分子ポンプも堅調に推移すると想定。

（航空）航空旅客需要増加に伴い、需要拡大は継続すると考えている。

Q：来年度の営業利益率の考え方を教えてください

A：研究開発、人的投資などの成長投資を継続して進める一方、価格改定や、プロダクトミックスの改善など、継続して総利益率の改善を図る。

Q：産業の4Q売上高が過去最高水準の見通しだが、この勢いは来年度も継続するのか

A：主力のターボ分子ポンプが半導体製造装置向けの回復が見込まれていることや、グリーン関連向け（薄膜太陽電池製造装置など）が堅調に推移するため、勢いは継続すると考えている

以上